

教 仏 名 聞

第18号
(発行日)

2012年3月1日

発行所：真宗大谷派念佛寺

〒6638113 西宮市

甲子園口2丁目7-20

電話・FAX (0798)

63-4488

(発行人) 土井紀明

mail:bachkantata2mubansou@zeus.e

onet.ne.jp

http://www.eonet.ne.jp/^souan/

《 聞法会ご案内 》

○ 〈同朋の会〉

毎月22日 午後2時始。

○ 〈念仏座談会〉

毎月2日と12日午後3時始

○ 〈聖典学習会〉

毎月6日午後7時始。

○ 〈真宗入門講座〉

毎月18日午後6時30分始。

* 8月は2日の念仏座談会と6日の聖典学習会以外は休み。

死後への問いと今の救い

あるお寺の信仰座談会での
実際の内容に私の今の考えを
加えたものである。

*

A 「去年、主人が亡くなった
んですけど、主人は浄土へ生
まれたんでしょうか。どうな
ったんでしょうか」

D 「私には分かりません」

A 「分かりませんか」

D 「ええ、ではAさんあなた
はご自分が死んだらどうなる
と思っておられますか」

A 「分かりません。死んだら
親の処か主人のいる処に行き
たいと思いますが。じゃあD
さん、あなたは死んだらどう
なると思っておられるのです
か」

D 「私もどうなるか、自分(知
性)では分かりません。世の
中の人は、死んだら無になる
とか、自然の土に帰るとか、
天国に行くとか、浄土に帰る
とか、地獄に落ちるとか、い
ろいろ云われてますが、ほと
んどは単なるイメージか慰め
か怖れか、あるいは人生の辻

褻(つま)を何とか合わせようとして
のことではないでしょうか。
確かなこととして云っている
わけではないのでしよう」

A 「死んでいく先が分からな
かったら不安ですね」

D 「ええ、それが実際だと思
います」

A 「不安であつてもどうする
こともできないなら、不安な
ままこの世の人生を終わって
いくしかないのですね。とこ
ろでDさんは、死んでいく先
がご自身では分からないとお
っしゃいました。それで不
安ではないのですか」

D 「まったく不安がないと云
えばウソになります。し
かし、困らないのです」

A 「なぜですか」

D 「私の力(知性)では自分
の死んでいく先が分からなく
ても、阿弥陀様が(浄土へ連
れていく)と仰せられています
ので、(ああ、お浄土へ連れ
て行って下さる)と有難く思
わせていただいています。実
に簡単なんです」

A 「簡単なのですね。しかし、
それはDさんの単なる思い込
みではないですか」

D 「いいえ、(汝を浄土に至
らしめる)という言葉は私の
思いついた言葉でもなく、私
の考えでもなく、仏語すなわ
ち阿弥陀如来様の仰せです」

A 「ご自分の考えではなくて、
仏の言葉であるといわれるの
ですね。その言葉はどこに云
われていますか」

D 「仏説無量寿経にできま
す。(もし(汝が浄土に)生
まれずば正覚を取らない)と
の阿弥陀様の誓約(せいやく)です」

A 「阿弥陀仏の誓いの言葉を
信じておられるのですね」

D 「そうです。極めて単純に、
この仏語を間違いないと信受
させていただいています」

A 「なぜそれほど単純に信じ
ておられるのですか」

D 「だいたい以前のことですが、
非常に困っていたとき、称え

《 念佛寺永代経法要 》

四月二十二日(日) 午後二時始

講師 藤谷知道師(大分県宇佐市)

ている南無阿弥陀仏が(その
ままなりで引き受ける)との
お心であると実感として知ら
されました。その時以来、そ
れまで困っていた苦しみが消
えました。それから仏のお
助けのお言葉は間違いないと
素直に受け入れることができ
るようになりました」

A 「仏の大悲心に触れて仏の
言葉が真実であることを感
じ、(汝を浄土へ生まれさせ
る)との仏の言葉を信じるよ
うになられたのですね」

D 「ええそうです。(汝を浄
土へ連れていく)という南無
阿弥陀仏の仰せが湧き起(わ)こ
ると、何の計(わ)らいもなくただ単
純に仏の大悲が自然と感(か)じら
れるのです。我が事ながら不思
議です」

A 「ということ(汝を浄土
へ連れていく)という言葉は
単なる自分の想像でもなけれ
ば、思い込みでもなく、自分

正信偈に学ぶ問答

(二十九)

天親菩薩論註解 報土因果顕誓願

(書き下し) 天親菩薩の『論』、註解して、報土の因果、誓願に顕す。

(現代語訳) 天親菩薩の『浄土論』を注釈して、浄土を建立された因果も阿弥陀仏の誓願によることを明らかさせた。

*

D「曇鸞大師は天親菩薩の著された『浄土論』という書に對する註釈をされました。その註、釈によつて、(報土の因果、誓願に顕す)以下のことを了解することが出来た。もし曇鸞大師が註釈して下さらなかつたら、愚かな私は浄土論の深い思し召しを了解することは出来なかつた。曇鸞大師の御苦労のおかげであると、聖人は曇鸞大師を讃えておられるのでしよう」

A「(報土の因果、誓願に顕す)とのことですが、報土と

の思いを超えた確かなものが働いていると受けとられていくのですね」

D「ええそうです。阿弥陀仏のお心に触れると、仏のお心におさめ取られて、阿弥陀仏のお心と離れなくなるという利益をいただきます。現在ただ今、阿弥陀仏から離れることができませんので、生きようと死のうと阿弥陀仏のお働きの中であることがほのかであつても知らされるのです」

A「生きても死んでも阿弥陀仏から離れることができない、といわれるのですね」

D「ええそう感じています。ほかですが不思議なことには決して消えないですね。本当にいへば、私だけではなくて、亡くなられたご主人もあなたも阿弥陀仏とともにおられるのでしよう。ただそのことに気がつかないだけだと思います。ですから亡くなられたご主人にも阿弥陀仏はついておられ、そのことに気がつかせようと阿弥陀様は喚びづめに喚んでおられるのでしよう」

A「阿弥陀仏がすべての人に離れずにおられる、というのはよく分かりませんか」

D「このことは、極めて身近な事実においてもかがうこ

とができるのではないでしようか」

A「どうということによつてですか」

D「たとえば私たち一人一人が絶対に離れることができないこと(もの)は何でしよう」

A「わかりません。何なのでしよう」

D「自分の子でもないし妻でもないし、家でもないし、土地でもない。あるいは空気でもありません。もつと云えば肉体でもありません。肉体も死ねば離れます」

A「では何ですか」

D「それは今ことという事実です」

A「どういうことですか」

D「今という時と時を離れない(ここ)という場、それは私がおの場において生まれ、生き、働き、死んでいくような根本的な場。それがいつでも私とともにあり、私を撰め取っている実在のはたらきであつて、それを如来(浄土)といつてもいいのではないかと、現在の私はほのかながらそう了解しています」

A「難しいですね」

D「ええ、難しいですから、これは(阿弥陀様が今この私をおさめ取つて離れたまわ

ない)という恵みとただけ

A「では亡くなった主人も(私も阿弥陀様の中にいる)という、そのことに気がつくことが大事なのですね」

D「ええそうです。でもそれは私の力ではわかりませんから、阿弥陀様の方から南無阿弥陀仏と私に喚びかけて気がつかせて下さるのです。気がつけば阿弥陀様と私の真のあいがで、私はこの世が終

われば阿弥陀仏の領域に至るとの仰せを(ああ有難い)と素直に受け入れることが出来るのです。阿弥陀仏の働きに気がつく(如来様の功德がその人に活性化するといえる)のではないでしようか」

A「そうすると逆に、たとえ阿弥陀様のお手の中にいても、それに気がつかなくつたら、阿弥陀仏の尊い功德が活性化しないのですね」

D「ええそう思います。しかし喚びづめに喚んで下さつてますから、有難いことに南無阿弥陀仏のお念仏の声によつて、縁あればいつでもだれでも今気がつくことが出来るのです」

(了)

D「阿弥陀仏の極楽浄土のことです。浄土のことをここでは報いによつて現れた土(領域)といわれました」

A「報いとはどういう報いですか」

D「これは仏説無量寿経に説かれていて、法蔵菩薩が一切衆生を仏にしたい、救いたいと願われ、その願いを実現するために永劫の修行をして、その願と行の因に報い願われて極楽浄土が果として成就されたのです。その浄土は私たちを導き、希望と安らぎと喜びを与え、浄土にて大いなる涅槃の悟りを私たちに実現して下さる。そして浄土を背景に迷える世界に入つて衆生を救済する働きに出さして下さる、と説かれています」

A「極楽浄土は法蔵菩薩の願行という因に報いて、その結果として顕現した世界であるといわれるのですね」

D「ええそうです。そしてその法蔵菩薩の願行の因果は、

とりもなおさず衆生が浄土に往生することのできる因果でもあります。こうした意味が「報土の因果」という言葉の中にこもっています」

A 「その報土の因果を「誓願に顕す」といわれるのはどういうことですか」

D 「無量寿経に依りますと、法蔵菩薩は一切衆生を仏にな

さんがために、誓願を建て、その願を成就するために六波

羅蜜の行を衆生に代わって永劫かけてなさり、その願が成

就して浄土は完成し法蔵菩薩は阿弥陀仏になられ、一切衆

生は阿弥陀仏のお力ばかりで助かる、と説かれています。

そのように阿弥陀仏の救済活動を法蔵菩薩の誓願とその成就という因果として顕して下

さることによって、私たちは阿弥陀仏の広大な大悲の救済

のおぼしめしを知り、その大悲のお働きにあずからしてい

ただくことができるのです」

A 「法蔵菩薩の誓願というのは四十八願のことですね」

D 「ええそうです。法蔵菩薩は一切衆生の悟りが成就する

領域として浄土を建立された

いと願い、その浄土はどのよ

うな領域であるべきか、そしてその浄土に一切衆生はどの

ようにして生まれるのか、浄土に生まれたものはどういう

功徳をいただくのか、また法蔵菩薩御自身はどういう仏に

なるうとされるのか。そのよ

うな内容が四十八願として誓

われています。それによって、

漠然とした仏の慈悲ではな

く、阿弥陀仏の慈悲の内容が

具体的に表現されています」

A 「曇鸞大師が「報土の因果、誓願に顕」された具体的な例

を示してください」

D 「たとえば『浄土論註』の

「莊嚴性功徳成就」という

ところには、法蔵菩薩は私た

ちの世界は三界の中の欲界で

あつて、欲望が根になつてい

る苦惱の世界であると見てこ

浄土に迎えようと誓願を起こ

された、と説かれています」

A 「外には」

D 「法蔵菩薩は、この世界は

狭いゆえに苦しみが多いこと

をみそなわされ、願はくは

わが国土、虚空のごとく广大

にして無際ならん」と誓願さ

れ、それを成就して廣大無辺

な浄土ができ上がっている。

こうして広大な浄土に生まれ

させたいとはたらきかけて下

さつている、と曇鸞大師は仰

せ下さつてます。実際、私た

ちの国土は狭いがゆえに、お

互いに争いわずらつていま

す。それをみそなわされて広

大無辺な領域として浄土を建

立されたのだとの仰せでしょ

う。このように浄土は私たち

の苦しみを知り抜き、私たち

に清浄な真の樂を与えたいと

の如来法蔵様の大悲の智慧に

よって誓願がおこされ、法蔵

菩薩の願と修行の因に報いて

成就されたのが阿弥陀仏の浄

土であるとの思し召しです」

D 「阿弥陀仏が誓願を起こさ

れたわけを聞けば、そこに阿

弥陀仏の大悲の深さを感じ、

また同時に私たちの世界がど

のような汚濁と苦の中にあ

り、私たちがどれほど悩まし

く浅ましいとなみをしてい

るかが知らされますね。浄土

を成就される中に、私たちの

世界と罪の有様が浮き彫りに

され、それを大悲された阿弥

陀仏のお心が知らされるので

すね」

「そうなんです」

A 「ではなぜ誓願の因果とい

う形で顕されたのでしょうか

D 「それはさきほど申しまし

たように、広大な慈悲の働き

を私たち凡夫に知らせ、聞か

せることによつて大悲の心を

私たちに与えたいがためであ

りました。阿弥陀仏の大慈

大悲のお働きに私たちは包ま

れ、働きかけられて、南無阿

弥陀仏となつて喚びかけられ

ている。極めてありがたい光

明無量の中にあることを、法

蔵菩薩の願行とその成就とい

う因果系列で表示すること

で私たちがその恩恵にあずかる

ことができるようにとの弥陀

・釈迦の大悲方便なのではな

いでしょうか」

《真宗入門講座》
(お勤め練習と正信偈の学習)
毎月十八日 (午後六時半始)
担当 (副住職) 土井尚存

